

平成16年度企画展 江戸の数学 —いま、和算が面白い!—

10月29日(金)～11月7日(日)
10:00～17:00(初日は14:00～)

和算とは、江戸時代に日本で独自に発展した数学です。当時としては世界最先端のレベルであるとともに、そろばんによる計算方法や「ねずみ算」に代表される数学遊戯などは、江戸期の庶民に広く親しまれ、日本人の数学力の高さを築いたものとして知られています。また近年は、理数教育の現場での教材としても注目されています。

今回は、東北大学で所蔵する世界一の和算コレクション約2万2千冊の中から、代表的な資料を展示するとともに、和算の歴史と内容、測量術との関わりなどを解説します。

記念シンポジウム(入場無料)

日時: 10月31日(日)10:00～12:00

会場: 東北大学経済学部第3講義室(川内キャンパス)

テーマ: 「和算と仙台:現代における和算再興の取組み」

基調講演: 東北大学名誉教授, 土倉保氏

事例報告: 宮城県図書館, 一関市博物館, 東北大学附属図書館, 宮城県第一女子高等学校, 科学研究費特定領域研究「江戸のモノづくり」研究班

記念講演会(入場無料)

日時: 10月31日(日)14:00～16:30

会場: 東北大学経済学部第3講義室(川内キャンパス)

・「江戸の社会に生きた和算家たち」佐藤賢一氏(電気通信大学, 助教授)

「日本学士院所蔵和算資料目録」編集, 『江戸のモノづくり』研究課題「日本数学史料の所在調査と総合目録作成」研究代表

・「和算と測量:幕末の和算家小野友五郎の生涯」

鳴海風氏(作家)

「円周率を計算した男」(第16回歴史文学賞), 「算聖伝:関孝和の生涯」, 「和算忠臣蔵」, 「怒涛逆巻くも:幕末の数学者小野友五郎」

※図書館員による展示解説

11/6(土)・11/7(日),各14:00～

交通案内



※ JR 仙台駅西口バスプール9番のりば:「青葉台」「工学部」「宮教大」行き乗車, 「扇坂」下車徒歩3分

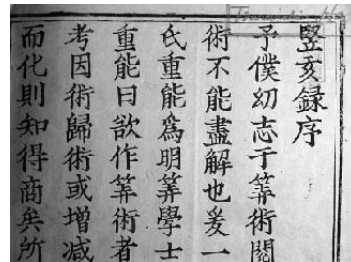
※ 駐車場がありませんので、車でのご来館はご遠慮ください。

第1部 和算の誕生と発展

中国の数学の影響から生まれた和算は、「塵劫記」という江戸期を通じたベストセラーの誕生により、大きく発展することとなります。多くの和算家がさまざまな著作を刊行し、和算の発展に寄与することとなりました。



▲ 吉田光由「塵劫記」寛永8年版



▲ 今村知南「堅亥録」

第2部 和算の普及

関孝和により独創的な成果をえた和算は、それ以降関流を中心に普及・発展することとなります。また、算額(問題を記録した額)を神社などに奉納する風習は、全国各地に広まりました。



▲ 関流免許状



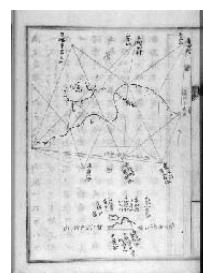
▲ 関孝和「大成算経」

第3部 実学への応用

和算書の中で育てられてきた測量・土木の技術は、伊能図作成や全国各地の治水・灌漑に大きく生かされることとなります。和算家たちの手による測量書に、その成果を見ることができます。



▲ 小野友五郎校「量地図説」



▲ 伊能忠敬述「量地伝習録」▲

第4部 東北の和算

仙台藩士の戸板保佑により仙台にもたらされた和算は、和算家たちの交流により東北全体に広まりました。また、山形出身の会田安明が関流に対抗して創始した最上流も、山形や福島などに広まり、東北地方は多くの和算家を生み出すこととなりました。



▲ 会田安明「当世塵劫記」



▲ 千葉胤秀「算法新書」